



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2014年度 No. 3)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆HC賞授賞のご報告
- ◆HCGシンポジウム2014開催のご報告
- ◆2015年総合大会開催のご案内
- ◆FIT2015 (第14回情報科学フォーラム) 投稿のご案内
- ◆HC特集号投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HCS)
- ◆研究会活動紹介 (HPB/旧HPD)

HC賞授賞のご報告

〔庶務幹事〕近藤一晃 (京都大)

平成26年度ヒューマンコミュニケーション (HC) 賞授賞式が、平成26年12月17日の HCGシンポジウム2014会場 (於: 海峡メッセ下関) にて開催され、受賞者には賞状と副賞のクリスタル盾が贈られました。HC賞は過去 1年間に開催された第1種研究会 (HCS, HIP, MVE, WIT) における技術研究報告を対象に、各専門研究委員会に設置された選考委員会の厳正なる審査の下に選出されます。例年、多くとも50件に 1件という基準で選考しており、ヒューマンコミュニケーショングループが授与する賞のなかでもっとも権威が高い賞と言えます。

本年度では過去 1年間の設定の見直しや一般からの推薦を考慮するなどの検討が行われ、最終的には、1) 対話時における呼吸動作と話者交代の関連性分析、2) 対象人物の容貌・性格特性が魅力評定に与える影響、3) ヒトと魚における予測性眼球運動の違い、4) アクティブマーカを用いた注視判別、5) 触覚を用いた図やグラフ情報の伝達、に関する 5件の発表が受賞しました。いずれもが「人」という難しい対象を様々な切り口から明らかにしようとする魅力的・挑戦的な研究となっており、テーマ設定・アプリケーションの面白さ・得られた結果の興味深さ、などの観点から評価されています。賞一覧につきましては下記URLよりご覧いただけます。原稿もあわせてぜひご覧ください。

<http://www.hcg-ieice.org/2014/12/26/hc-awards-2014/366141588/>

HCGシンポジウム2014開催のご報告

〔企画幹事〕今井順一 (千葉工大)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 主催のHCGシンポジウム2014は、山口県下関市にある「海峡メッセ下関」にて2014年12月17日 (水) ～19日 (金) の日程で開催されました。参加者226名、研究発表117件

と、前回は上回って過去最多となり、大変な盛り上がりを見せたシンポジウムとなりました。

前回に引き続き、今回のシンポジウムでもすべての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠が付与され、横断的かつ濃密な議論や研究交流が行われました。今回は特に萌芽的研究の発表が推奨されました。外部の研究者による様々な立場からの意見を得ることで、研究のさらなる発展が期待されます。また、今回は4件のオーガナイズドセッション (「コミック工学」、「ヒューマンセンタードesignの理論と実践」、「雰囲気工学」、「G空間コンピューティング: センシングからコミュニケーションまで」) が開催されました。現在急速に広がりを見せている研究分野の発表が一堂に会し、活発な議論や意見交換が交わされました。

シンポジウム1日目には招待講演がありました。今回は各種メディアでもご活躍されている気象予報士の森朗氏 (株式会社ウェザーマップ) をお招きし、「防災情報は役に立つのか?」と題してご講演いただきました。気象や天気予報、防災にまつわる話題を、歴史から最先端の技術まで、多彩な例を挙げながらわかりやすくお話いただき、大変好評でした。その後、ヒューマンコミュニケーション賞の授賞式が行われ、2013年10月から2014年9月の間に発表された優秀な研究報告5件が表彰されました。また、1日目夜には「HCGの在り方を考える会」が開催されました。今後のHCGの在り方について、研究活性化や情報発信など、多様な視点から活発な議論が交わされました。

なお、本シンポジウム開催にあたり、下関観光コンベンション協会からご後援をいただきました。また、サイトセンシング株式会社、株式会社イノバテック、キッセイコムテック株式会社、株式会社CAEソリューションズの各社にもご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

次回のシンポジウムは、富山県富山市にある「富山国際会議場」にて2015年12月16日 (水) ～18日 (金) の日程で開催する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2015年総合大会開催のご案内

〔企画幹事〕川原靖弘 (放送大)

2015年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします。今年は滋賀県草津市にある立命館大びわこ・くさつキャンパスにおいて開催されます。

会場: 立命館大 びわこ・くさつキャンパス
会期: 2015年 3月10日 (火) ～ 13日 (金)

最新情報につきましては下記をご覧ください。

http://www.toyoag.co.jp/ieice/G_top/g_top.html

電子情報通信学会では、春に総合大会を、秋にソサイエティ大会を開催しております。総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む 4 ソサイエティ 1グループが一堂に会して開催されます。今年の総合大会では、

ノーベル物理学賞受賞者の天野浩（名古屋大 大学院工学研究科教授）及び中村修二（カリフォルニア大 サンタバーバラ校教授）両氏による特別記念講演（3月12日（木））が予定されています。また、総合大会では例年、多数の企画セッションが開催され、今大会においても55件の企画セッションが提案されています。HCG関連では、情報の認知と行動研究会（ICB）等より、「脳科学を基盤とする情報通信新技術の創成に向けて」（依頼シンポジウムセッション）と「教育改革と人材育成」（大会委員会企画）の2件の企画セッションが予定されています。

- ・脳科学を基盤とする情報通信新技術の創成に向けて（3月12日（木））
オーガナイザ：柏岡秀紀（情報通信研究機構）
- ・教育改革と人材育成（3月11日（水））
オーガナイザ：小粥幹夫（日本経済大）

大会期間中には平成26年度学術奨励賞授賞式も行われます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

FIT2015（第14回情報科学技術フォーラム）投稿のご案内
〔企画幹事〕川原靖弘（放送大）

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）、情報・システムソサイエティ、及び情報処理学会が共催するFIT2014（第14回情報科学技術フォーラム）をご案内申し上げます。今回は愛媛大城北キャンパス（愛媛県松山市）において開催されます。

- 会期：2015年 9月15日（火）～17日（木）
会場：愛媛大 城北キャンパス
スケジュール：
・査読付き論文申込／投稿受付開始：2015年 3月 4日（水）
・査読付き論文申込／投稿締切：2015年 4月15日（水）
・一般論文申込／投稿受付開始：2015年 4月22日（水）
・一般論文申込締切：2015年 5月21日（木）
・最終原稿投稿締切：2015年 6月29日（月）

最新の情報は下記のURLをご参照ください。
<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/>

本フォーラムは、2つの学会の大会の流れを汲むものですが、従来の大会の形式に捉われずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきております。

FITでは、情報分野のより一層の活性化を目的として、「FIT査読付き論文」について優秀な論文をFITとして情報処理学会または電子情報通信学会の論文誌へ推薦する制度がございます。「FIT査読付き論文」の申込みと合わせて「論文誌への推薦希望」も受け付け致しますので、御希望の方は、Webからの講演申込みの際に「論文誌への推薦希望」欄にチェックを入れて下さい。論文誌へ

推薦されるためには、完成度の高い論文であることが求められます。論文誌への推薦可否結果は、2015年 6月19日（金）に推薦を希望された皆様にお知らせする予定です。本制度を利用し是非チャレンジして下さい（論文誌掲載の採否は、それぞれの学会の論文誌編集委員会が決定致します）。皆様の研究成果発表の場として、論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

HC特集号投稿のご案内

〔HC特集号編集委員長〕新井田統（KDDI研）

広帯域通信サービスや高機能端末などの高度通信技術の普及に伴う高度情報化社会の発達により、情報通信技術（ICT）が多くのユーザに利用されるようになりました。ICTは、ユーザの日常に関わる機器を通じて、人々の生活に深く関わっています。こうした中で、ユーザにとって便利で使いやすく安全でかつ楽しいICT社会を生み出すためには、ヒューマンコミュニケーションの視点からの研究が必要となります。新しいサービスやプロダクトを開発するための技術や手法を生みだし、人の感覚や知覚、認知、思考の特徴を理解して利用者の視点を捉え、ICTが使用される環境や社会、文化との関係を考慮しながら、これからのICTについて分野横断的に議論を行うことを目的として、ヒューマンコミュニケーション特集（和文論文誌 D）「ヒト・モノ・トコロを紡ぐ豊かな情報を発信するICT」（平成28年 1月号）を企画致しました。

本特集では、人間の知覚、認知、メディア処理、人工現実感などを用いた情報環境構築のための基礎技術、及びそれらの応用技術までの幅広い分野からの論文を募集します。

■対象分野

- ・ヒューマンコミュニケーション基礎
- ・ヒューマン情報処理
- ・マルチメディア・仮想環境基礎
- ・福祉情報工学
- ・発達障害支援
- ・ヒューマンプロンプト
- ・食メディア
- ・情報の認知と行動
- ・ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
- ・人と場所のつながりデザイン
- ・その他、ヒューマンコミュニケーション全般

■投稿締切

平成27年 3月27日（金）厳守

■詳細情報

詳細は以下のページをご確認下さい：
<http://www.hcg-ieice.org/2015/01/05/2015-call-for-paper/>

■問合せ先
編集委員長 新井田統 (KDDI研)
email: niida@kddilabs.jp

■編集方針
編集方針は和文論文誌Dの編集方針と同一です。ヒューマンコミュニケーション分野は新しい研究領域であることから、この分野の研究を刺激し、発展させる先導的な研究成果をいち早く採録するために、信頼性はもとより、新規性・有効性に重点を置いた編集方針を採ります。

特に、(1) 研究における問題設定・着眼点・コンセプトの新しさ、(2) ヒューマンコミュニケーション分野を発展させる有用な知見の有無、(3) 既存の研究・製品・サービスに対する研究の位置付けの3点を新規性・有用性の評価において判定します。信頼性に関しては、上記の主張点の妥当性を判断する根拠が客観性の下、論理的に示されていることを確認する方針とします。

ヒューマンコミュニケーションに関わる幅広い分野からの、多数の方々の積極的な御投稿を期待します。

研究会活動紹介 (HCS)

[HCS委員長] 藤田欣也 (東京農工大)

ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会 (HCS) は、人間のコミュニケーションの特性を理解し、それを支援するための通信技術にかかわる基礎的な研究を発表する場の提供を目的に設置されました。具体的には、従来の通信技術開発の視点だけからではなく、福祉を意識し、人間の感覚、知覚からはじまり、社会的コミュニケーションの研究を扱っている心理学や社会学、さらにはその他の分野を含めた学際的、総合的分野の研究発表、討論の場の提供を目指しています。

HCS研究会の特色は、発表者・参加者のバックグラウンドの広さです。情報工学を中心とした工学系研究者はもちろんのこと、心理学や社会学を専門とする研究者も多数参加して、毎回の研究会では、それぞれの専門を超えて踏み込んだ議論が活発に交わされています。近年は1年に5回のペースで研究会を開催しており、関連学会・研究会との交流も積極的に行っています。2014年度は、5月に沖縄で「コミュニケーション支援」をテーマにHIP研究会およびヒューマンインタフェース学会SIGCEと共催、8月には京都で「コミュニケーションと雰囲気」に関してVNV研究会と連立開催、10月には東京で「コミュニケーションの計測・モデル化」に関する研究会を東京農工大・知的情報空間プロジェクト講演会・見学会とともに開催し、2015年1月には小豆島で社会心理学会ならびに日本心理学会幼児言語発達研究会と共催で「コミュニケーションの心理とライフステージ」をテーマとする研究会を実施しました。今後は、2015年3月に山代温泉において、すっかり定例となった合宿形式での「コミュニティデザインとコミュニケーション」に関する研究会を予定しています。

コミュニケーションは社会活動の基本要素であり、長い歴史を有する研究分野

である一方で、情報通信技術の進歩はコミュニケーション研究に新たなデータや分析手法をもたらし、さらにコミュニケーションそのものすら変容させてつづつあります。コミュニケーション研究に興味をお持ちのかたは、是非、HCS研究会に参加して一緒に議論してみてください。同じ興味を持つ仲間と出会うことで、より一層、コミュニケーション研究に興味を湧いてくると思います。

研究会WEBサイト：<http://www.ieice.org/~hcs/wiki/>

研究会活動紹介 (HPB/旧HPD)

[HPB委員長] 伊藤昌毅 (東京大)
[旧HPD委員長] 小川克彦 (慶應義塾大)

HPB研究会は、2009年より活動を続けている第2種研究会です。近年、センサ技術やMEMSの発達により、人が携帯したり装着できるセンサデバイスが普及し、スマートフォンの普及などとともに「人がセンサを持ち歩く」ことが当たり前な時代になりました。ソーシャルメディアへの発信から人の解釈を経た情報を取得することも可能になっています。本研究会では、人が持ち歩く情報機器を活用し環境や自分自身を計測するセンシングを“Human Probe (人間による計測)”と名付け、データの収集方法、様々な応用サービス、プライバシーやセンシング活動の促進手法などの研究を分野横断的に進めています。

2014年には、それまで2年間、第3種研究会として活動を続けてきた人と場所のつながりデザイン (HPD) 研究会と合流し、その活動領域をより広げております。HPD研究会ではこれまで、地域住民や観光客と駅とのつながり、子育てにおけるメディアとしての場所などの話題提供を基に、人と人、人と場所の新たな“つながり”を実現するメディアやサービスのデザインに関して、情報工学、人間工学、感性工学、心理学、社会学、建築学といった種々の分野で活躍する方々と、時間をかけて、学際的な深い議論を行ってきました。HPB研究会からは、前委員長の岩井将行 (東京電機大) が、世田谷区の騒音センシングなどの話題提供を行ったほか、2014年には、「人々と情報が集う“場”の再考察」をテーマとして合同研究会を開催し、伊藤より「場所の可能性を引き出すメディアをデザインする」と題した講演を行うなどの経緯を経て、両研究会の協調の必要性から、このたび合流しひとつの場でより深く発展的に議論を続けてゆくことになりました。

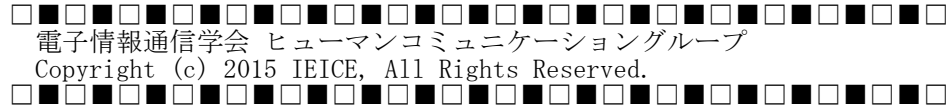
HPB研究会は、例年2回の研究会を開催しております。2009年7月の東京大での研究会を皮切りに、これまで11回の研究会を開催してきました。2015年2月に予定している第12回は、HPD研究会との合流後の初の研究会であり、「街を測る！街で測る！」というテーマで発表を募集しています。ここでは、石塚宏紀氏 (KDDI研) による、商店街へのBLE Beacon設置やその応用に関する講演を予定しており、都市空間とセンシングの融合を、実践事例を交えながら議論する、新生HPB研究会にふさわしいテーマとなっています。

また、2012年11月にMicrosoft Research AsiaのDr. Xing Xieらを招き主催したシンポジウム「ヒューマンプロブの新たな展開」を開催したほか、2011年には、タイにてICHPSSを開催、2013年に中国無錫にて研究会を開催、2014年にはパリにてワークショップ“International Workshop on Web Intelligence

and Smart Sensing”を共催するなど、対外発信や国際的な連携の強化にも力を入れています。

ヒューマンプローブを中心とするセンシングが発展することで、あらゆる場の様相や意味などが継続的に情報として取得されるようになり、サービスを実現する基盤情報として利用出来るようになります。その時、その場に特化した情報サービスが当たり前になるだけでなく、その場所のかたちや価値、その場における人の思いや行動が、建築空間や物理的な設備だけでなく、環境や人の持つ情報機器の相互作用で決まります。例えば一人しかいないのににぎやかな場所、必ず道に迷える場所、知らない人となぜか仲良くなれる場所など、これまでになかった場を生み出すことが可能になるでしょう。本研究会が、このような分野の研究を議論し発展させられる場になるよう、活動を続けてゆきたいと思っています。

ヒューマンコミュニケーションングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。



☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社)電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659